

第3種郵便物認可

# 「辺野古へー伝えて」

## 県内関係者、期待の声

### 知事・首相会談

翁長雄志知事と安倍晋三首相の初会談が17日に行われることに関し、米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設で国と協議を重ねてきた元県幹部や宜野湾市民からは16日、「日米首脳会談前のアリバイづくりだ」と政府を批判する声や「新基地ノーと訴えるいい機会だ」と期待する声が上がった。

### 「アリバイづくり」批判も

大田昌秀元知事時代の県政で副知事を務めた吉元政矩さん(78)は「大田元知事当選後も自民党政権は会わなかった。許容範囲にない」と判断すれば会わないやり方は今回と同質だ」と指摘。安倍首相の訪米を挙げ「会っておかないと米側に

性を見直す動きがあることを挙げ「グアムへの移転計画は日本側の要望で縮小された。在沖海兵隊はいらないということも具体的に訴えるべきだ」と求めた。

稲嶺恵一元知事時代に県政の政策参与だった比嘉良彦さん(72)は「安倍首相も1999年に県知事と名護市長の同意を経て辺野古移設が閣議決定したと説明するだろう。だが、知事や名護市長が付けた条件はほかにされ、2006年の閣議決定で廃止されたのが事実だ。政府の都合のいい解釈に対し理路整然と反論してほしい」と求めた。

その上で「日米首脳会談

会談を、沖縄の声を発信する機会として最大限利用すべきだ」と話した。

宜野湾市在住の女性らでつくる「カマドゥー小たちの集い」の上原美智子さん(65)は「翁長知事には昨年の選挙で、ウチナーンチュ

が「辺野古移設が普天間の固定化か」という政府の脅しに屈しなかった沖縄のマブイ(魂)を示してほしい」と強調した。「普天間飛行場は閉鎖、辺野古に新基地も造らせなさい」という県民の思いを訴え、それでも

### 「全国世論に訴えを」 北部

翁長雄志知事と安倍晋三首相の会談を翌日に控えた16日、新基地建設の準備が進む名護市辺野古やヘリコプター着陸帯建設が進む東村高江で抗議を続ける市民らから「思いを伝えてほしい」など知事に期待する声が上がった。

辺野古のヘリ基地反対協議会の安次富浩共同代表は「翁長知事から辺野古の問題を改善する具体的な言葉は期待できない」とした上で「知事は戦後70年続く

必要といふなら首相の地う訴えてほしい」と話した。山口県で引き受けるよた。

「ヘリパッドにいない住民の会」の安次嶺現達さん(56)は「平行線になってもいい。県民の思いをしっかりと伝えてほしい」と求めた。

沖繩平和運動センターの大城悟事務局長(51)は「知事が沖繩の現状を伝えることが全国的世論に訴えることができる」と期待しながら、「日米首脳会談に向けてアリバイづくりなら許せない」とくぎを刺した。

辺野古に住む金城武政さん(58)は「知事は『できない』とくぎを刺した。島ぐるみ会議のバスで辺野古を訪れた大城博子さん(63)が「政府は世論に押しやられて沖繩の民意だと伝えてほしい」と話した。

「ほしい」と要望した。高江の

いものではない」と強く主張してほしい」と強調した。一方、名護市の田港清治さん(86)は「本当は首相が沖繩に来て説明すべきだ」と批判した。島ぐるみ